

〔優秀賞〕

◇ 自分らしさを大切に ◇

城北小学校 6年 野村 湊

昔、佐野小学校は男子校、天明小学校は女子校だったということを祖母から聞いた。今の時代のぼくたちには想像もできない。祖母は、「男女7さいにして席を同じくせず。」という言葉も教えてくれた。7さいになったら男女の区別をはっきりとして、おやみに仲良くしてはいけないという意味らしい。でも、それは戦後改正されて佐野小学校も天明小学校も今は男女共学になった。

ぼくは、1年生のころ、学童保育に通っていた。そこで先生に編み物を教えてもらい、マフラーを作ったことがある。マフラー作りは、すごく楽しく、夢中になって作った。友達には、

「男のくせに。」

と笑われたけれど、入院していた姉にあげたらとても喜ばれた。

やりたいことや楽しいことがあるのに、男子だから、女子だからという理由でできなかったらちょっと悲しい。男女にかかわらず、だれもが自分らしく生き生きと生活できれば、きっと楽しい社会になると思う。

日本の政府は、女性活躍推進法という法律をつくり、いろいろな企業に3割の女性管理職を採用するようになっていると親から聞いた。現に祖母の職場であるスーパーマーケットでも女性店長がとても増えたとし、市役所なども女性管理職が増えていると聞いたことがある。小中学校、高校でも女性の校長先生や教頭先生が増えている。誰もが平等に学んだり、働いたりするチャンスが与えられたり、

責任も分かち合ったりできる社会をつくる。

このような社会を実現するためには、「男らしさ」や「女らしさ」というわくの中にこれからの子どもたちを当てはめてしまわないよう、男女平等に教育することも大切だと思う。

ぼくの家でも、母が父にごみ出しを頼んだり、食器洗いを頼んだりするが、その度に父はいやな顔をしたり、

「いやだなあ。」

と言ったりして、面倒くさそうにしているが、ぼくは、家事は女の人がやるものだという父の考えは違うと思う。家族みんなで協力して家事をしなければ、母だけが大変になってしまうから、ぼくたち兄弟も手伝っている。自分でできることを大切にしている。これからも家族みんなが少しでも楽になるようにたくさん家事の手伝いをしていきたい。

ぼくは、将来、シェフになりたいという夢がある。家事の手伝いをしていることがきつと役に立つときが来ると思う。これからも男女に関わらず、自分らしく、夢を実現するために、「自分らしさ」を大切に興味があることや好きなことにどんどん挑戦していきたいと思う。